



高い目標

金曜日の放課後、クラスの合唱練習の様子をのぞいてみた。この日はたまたま女子が少なかったが、男子はほとんどが顔を揃えていて、しかもかなりの熱唱ぶりで「へえ〜！」みたいな感じであった。

まず驚いたのは、歌に対する姿勢である。練習ではあるが、歌っている間の集中力は、去年の本番と同じくらいのレベルにあったのではないかと想像されるくらいで（なにせ昨年の本番は見ていないので…）、視線は指揮者の●●君に集まっているし、口の開き方も大きく立派であった。つまり、「歌う」ということに対する姿勢の違いが如実に感じられたということである。教室の中だから、どれくらいの声量があるのかははっきり分からないが、それでもかなり聞かせられる段階に来ているように感じた。

ただ強いて言えば、今は自分のパートを確実にこなすことが中心のように感じられたので（特にバス）、今後はまず自分のパートを確実にした上で、他のパートの音を聞きながら、それに自分たちの声をうまくミックスさせていけるようになれば、さらに一体感が高まってイイ歌唱になるに違いないと感じた。

昨日も歌う際のポイントがいっぱい記されたメモ（原稿が鉛筆書きなので、かなり読みづらい印刷になってしまったが）が配られたはずだ。ああいうメモを作ってくれる人がいるのである。しっかり読んで、それを自分たちのパフォーマンスに生かそう。

*

▼6月12日（金） ●●

日々の合唱練習が楽しいです。今の自分は

人生で一番合唱に命を賭けています。一日一日が本当に早い。一日の感想ではなくなってしまうんですけど、あれです。合唱練頑張りたいです。後輩に残せるような合唱がしたいです。

「後輩に残せるような」というところがなかなかよい。毎年こういう3年生がいるからこそ、日比谷の合唱祭は高いレベルを維持しているのであろう。

*

ところで、この前の夏休み中の模試の合同申し込みでは、駿台の東大実践には約160名の諸君が、河合塾の東大オープンには140名の諸君が申し込んだそうである（京大実践、京大オープンもそれぞれ10名ずつくらいのこと）。両方に申し込んだ人もいるかも知れないが、医学部志望の人も含めて、これだけの人が最難関を目指そうとしているわけではなかなか立派なことだと思う。こういう風に全員が高い目標を目指して努力を続けると、それが授業の質をさらに高めることになって学年全体の学力も上向きになり、結果として個々人の成果にもイイ影響を与えるようになるのである。

合唱もそうだが、ぜひ友だち同士で励まし合って、より高い目標を目指すような学年・クラスになってほしいものである。そのためにも、まずは一人一人がしっかりと目標を持ち、その実現に向けて努力しようとする姿勢を明確に打ち出すことである。それに応え、ともに上を目指してくれるに違いない仲間がここ日比谷にはいるのだから。